



# JEG ニュースレター 170号

www.jegschweiz.com

2019年4月18日発行

## 小さな証

心の中に巣食うトラウマ、自己の存在の意味に苦しみ抜いた末にスイスで見出した希望と信仰、若き音楽家の証。P2

## ウエスト牧師・説教

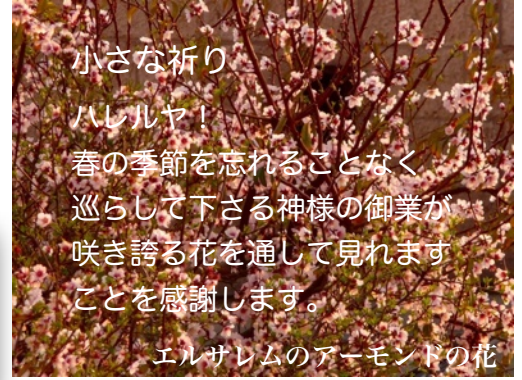
引退後、バーゼルからスイス内陸部に居を移された元宣教師ウエスト・ハンス牧師が説教されました。P3

## 津田和明兄が結婚

スイスJEGでユースリーダーとして奉仕された津田兄が、帰国後ご結婚され、神学校に入学されました。P3

## 第3回イスラエル旅行

スイスJEG創立25周年記念行事として企画された第3回聖地旅行が祝福のなか催行されました。



## 小さな祈り

ハレルヤ!

春の季節を忘れることなく巡らして下さる神様の御業が咲き誇る花を通して見れますことを感謝します。

エルサレムのアーモンドの花

私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちが新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。

ペテロの手紙 第一 1章3節

## 第3回イスラエル旅行特集



ガリラヤ湖畔に咲くからしの花と対岸のティベリアス

## ちいさな証

## 用意されていた生きる希望と目的

深井愛記音

スイス日本語福音キリスト教会会員

今回、小さな証を書かせて頂く機会を得ました。こうしてもう一度過去の自分と向き合い、主の前に告白する機会が与えられて、心から感謝しております。

私は福岡県のノンクリスチャンの家庭に生まれ、音楽家で教育熱心な両親のもとで育ちました。地元のキリスト教会付属の幼稚園に通ったことで、物心つく頃には聖書の神さまやイエスさまについての知識がありました。

私は幼稚園で習った神さまに毎晩お祈りをし、心から信じていましたが、日々の様々な出来事の中で、次第に神さまの存在を忘れて行きました。

私は幼少期から、生きる意味や自分自身の価値について悩んでいました。人生に対する諦めと不満に満ちて、投げやりな気持ちは募る一方でした。なんと無く続けていたリコーダーで東京の芸術大学に入学してからは親元を離れ、周囲に合わせて明るく振る舞い、気を紛らわせていました。しかし、自分の存在価値についての悩みや、過去のトラウマは心の中に巣食い、それに苦しめられていました。

ある日、クリスチャンの同僚に自分の悩みを話したことをきっかけに、私なりに神さまを求めはじめました。しかし、自己中心的にしか神さまを捉えられなかった私は、自分を変えようともがくうちに暗がりになり落ちて行きました。今では、主はこれらを通して私を訓練し、導いて下さっていたのだと確信しています。

大学院に進み、紆余曲折を経て当初全く計画していなかったバーゼルの音楽院への留学の道が開かれました。勉強したい一心でスイスへ渡り、そこでの生活が始まりました。今思えば、バーゼルには家庭集会もあり、チューリッヒには日本語教会もあったのに1年間、そのどちらにも行くことはありませんでした。そうこうするうちに日本の大学院を卒業するために半年一時帰国をするこになりました。

帰国した私に、神さまに依り頼むしかないと思わせる決定的な出来事が起こりました。人間の努力では変えようのないものがあり、それに対して完全に無力であると身をもって思い知らされたのです。何日も声を上げて泣きました。そしてある時何気なく開いた聖書のある箇所が目にとまりました。

あなたは、わたしの内蔵を造り母の胎内でわたしを組み立てて下さった。…胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。  
…詩篇139篇 13, 16節

神さまは一人一人をご計画をもって創造されました。涙を流して読んだこの詩篇139篇を通して、最初から私は神さまの手の中で造られ、同時に全て知られていて、ずっと見守られていたのだとわかったのです。

こんなに弱く、どうしようもなく醜い自分を受け入れられなくても、主は傲慢でわがままな私を時間をかけて砕き、そして溢れるばかりの恵みを与えて下さいました。

日本での大学院を修了しバーゼルに戻ると、今まで停滞していたものが一気に動き出しました。ある日本人の先輩がクリスチャンになったことを知り、その変わりように衝撃を受けたことをきっかけに、私は洗礼を受ける決心をしました。

同じ音楽院のクリスチャンの友人の導きで、マイヤー先生を始め、教会に集う人々、そして様々な国のクリスチャンとの交わりが与えられ、信仰が強められてゆきました。そして、先生との学びを通して、次第にイエスさまの十字架の意味を理解するよう

になりました。神さまから目を離し、好き勝手に生きてきたのに、聖書の「罪人」という言葉に嫌悪感を抱き、神さまがいるならなぜ？と傲慢に振る舞う姿は、まさしく私の「罪」そのものでした。そんな私のために、神さまは独り子であるイエスさまを送られるほど、愛しておられるということを知りました。そして、イエスさまは私のために全てを贖って下さいました。

いつ滅んでもおかしくない、真っ暗闇の中にキリストという光が差し込み、私は導かれました。そして、その先に生きる希望と目的がはっきりと用意されていたのです。

ついに、最初に神さまを信じたいと願った時から7年の歳月を経て、昨年の11月にマイヤー先生に洗礼を授けて頂きました。この弱い私の心に与えられた、聖霊のともしびれは永遠に消えることのない、確かなものだと思っています。そして、主にある仲間との出会いが次々に与えられるたびに、何とも言いえない生きる喜びと希望、そして感謝が湧き上がってきます。

こうして救われた私ですが、これからも時として神さまを忘れ、道を外れてしまうことがあるかも知れません。しかし、主にあってキリストに似たものとされるように日々祈り、同時に仲間や他の人々のためにも祈り、主に応えて行きたいと思っています。

これまでにとくさんの方々のお祈りと励ましに支えられて、導かれて来ました。心から感謝致します。



JEGクリスマス礼拝でソプラノ・佐藤裕希恵姉の歌曲を伴奏する。



1、スイスJEG主催 第3回イスラエル旅行

3月6日(水)から14日(木)まで、スイスJEG創立25周年記念企画・第3回イスラエル旅行(団長マイヤー・マルチン牧師)が催行され、事故もなく、祝福のうちに無事終了いたしました。25名の参加者のうち、12名はスイスJEG外の参加で、ドイツから5名、フランスから3名、チェコから3名、英国から1名の兄弟姉妹の参加者があり、共に旧新約聖書ゆかりの地と、イエスさまの足跡をたどり、生きた聖書知識を深める貴重な機会を得ることができました。



クムランの遺跡にて

今回の旅行の特色の一つには、クリスチャン・ジャーナリストで現地から貴重なイスラエル・中東の最新情報”オリーブ山便り”を発信されている石堂ゆみ姉によるガイドで、イスラエルにおける豊かな生活体験と深い聖書知識に基づくガイドがあったことです。

また、一般の聖地旅行団が足を踏み入れることのない西岸地域や、イスラエル聖書大学訪問、また、ティベリウスにおいてはメシアニックジューと共に礼拝を捧げる貴重な機会を得ることができました。

イスラエル北部のレバノン国境に近いMaalotにあるホロコースト生存者のための老人ホーム(マイヤー牧師が理事を務めるZadakah団体の経営)を再訪し、多くのドイツ人青年の献身的な介護の姿を見て、訪問者はイエスの愛を目の当たりにするよう深い感銘を受けました。



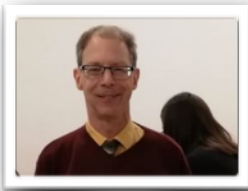
夜の嘆きの壁 にするよう深い感銘を受けました。

このニュースレターの4-12ページには参加者の証と感想文が特集されていますので、お読みになってください。

また、石堂ゆみ姉が発信されている”オリーブ山便り”は、こちらでご覧いただけます。<http://mtolive.blog.fc2.com/>

2、あなたはキリストの手紙です。

マイヤー牧師のイスラエル旅行をうけて、ウエスト・ハンス牧師(元スイスライオンツ宣教団宣教師・バーゼル市クリシヨナ教会前牧師)が、3月11日の日曜礼拝において、”あなたはキリストの手紙です” Ihr seid ein Brief von Christus をテーマに、コリント人への手紙第二、3章3節からみことばを解き明かして下さいました。



イエスさまからの手紙は墨によってではなく、生ける神の御霊によって、石の板にではなく人の心の板に書き記されたものです。



3月の愛餐会/誕生会

(コリント第2、3：3)キリスト者である私たちの最終目的はイエス様の似姿ですが、人々はキリスト者の生き様や言動からその手紙を読み取ります。心したいものです。

礼拝終了後、記録ビデオ”スイスJEG・2018年を振り返って”(12分)が上映され、旧年中、スイスJEGに主が注いで下さった豊かな恵みを、感謝をもって振り返る機会を得ました。

なおウエスト・ハンス牧師の説教のドイツ語テキストはスイスJEGのHPからダウンロードしてお読みいただけます。

3、4月のメッセージ

4月14日のマイヤー牧師のメッセージ”わたしたちの内にキリストが形作られますように”Christus soo in uns Gestalt gewinnen (ルカ 4：16-30&マタイ 17:1-9)は、上記をクリックしていただくか、スイスJEGのHP：礼拝メッセージサイトにて視聴していただけます。[スイスJEGのメッセージ-スイス日本語福音キリスト教会のホームページにようこそ!](#)

また、メッセージは、WhatsAppやLineにてスマートフォンにも直接お送りすることも出来ますので、ご希望の方はお知らせください。

4、津田和明兄がご結婚そして神学校入学



8年間の欧州における留学と演奏活動を終え、昨年8月1日に本帰国されたコントラバス奏者・津田和明兄は、故郷淡路島を本拠に音楽活動の傍ら神学校への入学準備をされていました。そして、3月7日に東京聖書学院を受験され見事合格されました。

3月23日には、母教会である淡路島/日本基督教団洲本教会で久松美奈姉と結婚式を挙げられました。ご夫婦は、4月8日に東京聖書学院の家族寮に入寮されました。

また、4月14日から滝井レオナルド・ゆきえ夫妻と同じ東京フリーメソジスト小金井教会の教会員となりました。聖書の学びと新しいクリスチャンカップルに、主の祝福が豊かに注がれますことを心からお祈りいたします。

5、第36回ヨーロッパ・キリスト者の集いの申し込み締め切り

7月25日から28日までルーマニアのクルージュ・ナポカで開催される第36回ヨーロッパ・キリスト者の集いへの参加申し込みは3月30日(土)に締め切られました。欧州各地と日本から204名の参加申し込みがありました。スイスJEGからは、29名もの参加者が与えられたことは感謝でした。

フランクフルト日本語福音キリスト教会の実行委員会では、ルーマニア側と連携して、これから各部門に分かれて具体的な準備作業に入りますが、どうか、上からの力と知恵を得て膨大な作業を遂行されるよう、また、健康が守られますようお祈りします。

また、集いに関するQ&M や映像も含め最新情報は、オフィシャルサイトの[ヨーロッパ・キリスト者の集いの特設サイト](#)でご覧いただけますので、ご活用ください。

6、世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

オーニングャー宣教師、クッツ・プスキラ宣教師、フーサー香織・シモン宣教師、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル宣教報告、在欧日本人宣教、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄弟は、HPでパスワードを入れて、いつでもお読みできるようにいたしました。

# イスラエルを旅して

## ただただ神の恵み

齋藤奈美子

シュトゥットガルト



私は、JEG 創立20年の記念すべき第一回目のイスラエル旅行と、この度の創立25周年記念の旅行と、二回も同行させていただきました。

前回は、旧約聖書の世界を立体的に見ることが出来、イスラエル国とユダヤ人の為に祈る思いを強く与えられた旅でした。今回の旅では、旧約聖書と新約聖書が一本の線で繋がっていることを実感でき、今も生きていらっしゃるイエス様の存在を強く感じることができました。メシアニックジューとアラブ人が共に学ぶ聖書大学の訪問。そして、そのような方々が集う教会での礼拝参加。これらの体験で、ユダヤ人から接ぎ木され、私たち異邦人が救われたこと、それは、ただただ神様の恵みであることを改めて深く思わされ、大きな感動に包まれました。

ホロコースト記念館では、記念館のガイド資格も持つ石堂ゆみさんが、2時間半休憩なしで解説をしてくださいました。想像を絶する虐殺の



ホロコースト記念館を案内されるジャーナリスト・石堂ゆみ姉

中では、ユダヤ人たちは、神様の存在を疑うことはなかったとのこと。それを聞いて涙が溢れだしてきました。ユダヤ人の神様への揺るがない信仰に圧倒され、神様から、あなたもそうありなさいと諭されたように感じました。イエス様こそメシアである

ことを彼らが信じてほしいと心から願います。これからもイスラエルの為に祈り続けたいです。

朝バスに乗ってすぐのデボーションから夜の分かち合いまで、9日間ずっと霊的に導いてくださったマイヤー先生、観光名所を信仰の視点からも深く解説してくださった素晴らしいガイドのゆみさん、旅行の煩雑な手続きをしてくださった憲二さん、そして温かく交わってくださった兄弟姉妹の皆さま、本当にありがとうございました。最高にしあわせでした。

## 接木された私達異邦人

マイヤー遠藤有紀

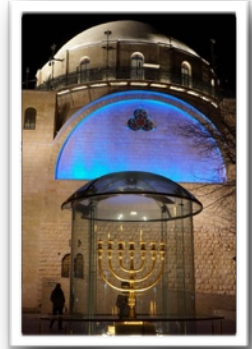
シュトゥットガルト

今回、初めてイスラエルを訪れました。長く雨が降り続いた後の晴天によりイスラエルは青々とした緑に覆われ花が咲き乱れる素晴らしい景色で旅の初めはかつてイスラエルに暮した人々の厳しい自然との共存を想像する事が難しい程でした。ガイドをして下さった石堂ゆみさんの解説は素晴らしく、当時の様子を聴

きながら遺跡や博物館を訪れるうちに徐々に色々な事を身近に想像出来る様になりました。又、聖書に出て来るそれぞれの場所でマイヤー先生から聖句について学べた事はその地の空気や鳥の声、水のせせらぎの音と共に私の中でずっと生き続けて行くものだと思います。

今まで私にとってイスラエル国やユダヤ人はどこか遠い存在でしたが、今回の旅で自分が異邦人として接木された者である事を実感し、クリスチャンとして常にイスラエルに心を寄せる大切さを学びました。

又、今回初めて信仰を通じて魂の繋がった兄弟姉妹と旅をする経験ができ、信仰の元に皆で喜びあい、助け合い、認め合い、聖霊に守られ主の御手の中で過ごした数日間は私の信仰生活の中でかけがえのない経験となりました。



## いつか死海で浮いてみたい！

山下まりさ

シュトゥットガルト

いつか死海で浮いてみたい！嘆きの壁を見てみたい！聖書に書かれてある場所をこの目で見て感じたいと思い初めてイスラエル聖地旅行に参加させて頂きました。

念願だった死海で浮く事、嘆きの壁に触れられ大満足でした。この旅で色々な場所を訪れましたが私の心を一番揺さぶったのはマーロツ老人ホーム訪問とホロコースト博物館でした。特にホロコースト博物館に関してはガイドの説明が素晴らしく一つ一つ心に入ってきて涙が溢れてしまいました。

この旅行を企画して下さいましたマイヤー先生をはじめ、現地ガイドの石堂ゆみさん、ツアーを取りまとめて下さった原さん、お世話になりました。またツアーに参加された皆さんが楽しいばかりで忘れられない旅になりました。

クリスチャンではない私を快くツアーに参加させて頂き本当に感謝しています。



# イスラエルを旅して

## ユダヤ人がイエスを受け入れる時

黒田閑恵

プラハ・コピリシ教会日本語礼拝



スイス教会主催では3回目、私には2回目のイスラエルは春の花咲く聖地でした。ガリラヤ湖周辺の青草の野から、雪の残るヘルモン山を

イエス様もご覧になった。渡り鳥の中継地であるから、その季節にはカギ形編成を組んで北へ、南へ向かう鳥たちも見ておられたに違いない。今思い出すと夢のような景色でした。聖書の風景が私には一段と美しくなりました。

一方で、強く印象に残ったのはメシアニックジュー神学校です。目立



イスラエル聖書大学の図書館で

たない建物から世界中に発信し、世界中からの人を受け入れるシステムに感心しました。さすがIT技術の進んだイスラエルらしいと思ったものです。現代のドンドン進んでいるIT社会に不安を覚えることがよくありますが、結局はどんな技術も使う人間次第であると、当たり前ですが、あらためて実感しました。

もう一つ強く心に残ったのは、9日のメシアニックジュー教会の礼拝です。小さい群れから始まり、10年たってあのように大勢の人々の集まる教会に育っていることに感動しました。旧約で育ったユダヤの人々がイエス様を受け入れる時には、どんなに芯の強い信仰になるだろ

うか、どれほど大きな実になることでしょうと期待せずにはおられません。



マグダラのシナゴークの遺跡

考古学的に正しい年代を認められるシナゴークや、その備品が見つかることはイスラエルの国の証であるから、現代のこの国の存続正当性等にとって重要なのだ、というお話でした。建国、信仰にとって、それら一つ一つが武具なのだと思いました。

まだまだありますが上手く書けません。本当に学びと恵みに満ちたすばらしい旅でした。計画していただき、旅行中ずっと羊の群れを導いてくださったマイヤー牧師、ベストガイドの石堂ゆみさん、そして原憲二さんに心より感謝いたします。お名前忘れてすみません、見事な腕前で運転し、最後まで安全に私達を運んでくださったバスの運転手さんにも本当に感謝いたします。旅仲間に入れてくださったスイスはじめドイツ、フランス、イギリスとチェコからの皆さま、どうもありがとうございました！主を賛美いたします！ハレルヤ！

## 聖書預言とイスラエル

佐々木千恵子

シュトゥットガルト日本語教会

まずは マイヤー先生 石堂ゆみさん 原憲二副団長さん、そして、参加者お一人お一人に心より感謝を申し上げたいと思います。たいへんハーモニーのある暖かく和気あいあいとした楽しいグループでした。

今回、私は病気のなか医師の許可がでて参加可能になり、体調が守られ、全行程で主に守られ共に行動できました。たくさんのとりなしのお祈りに心より心より感謝いたします。

毎朝バスの中で、み言葉&メッセージ&祈りをマイヤー先生がしてくださり、主を見上げて、一日の旅がはじまることに感謝でした。



夫とマイヤー先生(中央)とクムランにて記念撮影

結論から申しますと、聖書預言&イスラエル民族のことをますます知りたいと思うようになりました。イスラエルという国への興味が深くなりました。石堂ゆみさんの案内に加え、マイヤー先生がアブラハムから現代へと聖書預言の終末にいたる大きな歴史の流れを話していただき素晴らしかったです。

イスラエルは主が力を注がれ、どんどん発展しているのを目のあたりにしました。そこから、私自身、何を読み取り、行動していったらいいかなど思わされています。イエスさまが歩かれたであろうカペナウム、マグダラ、ヨハネが洗礼を授けたヨルダン川、。カナン土地を山から見下ろし、荒野を見渡し、空気を感じ、聖書が書かれた地に立たせていただいていること、その地名が実に身近に感じられ誠に感謝でした。



このようなすばらしい旅を主が可能にくださったことに心より感謝し、主を褒め称えます！！ハレルヤ！

ヘルモン山（2814m）はどれだけ眺めても減るものではない！（原憲二）



## イスラエルを旅して

### 聖地の奥深さ、 みことばの奥深さ

原憲二

スイス日本語福音キリスト教会

ハレルヤ、イスラエルの地を通して栄光を現してくださった神様に感謝します。語りつくせぬ素晴らしい旅でした！現地の空気と景色、遺跡を目の当たりにして、聖書に基づくマイヤー牧師、石堂ゆみ姉の説明、霊的メッセージには、感動の連続でした。企画、準備を含めた先生、ゆみさんのお働きに心から感謝いたします。



マサダの砦にて

また、この素晴らしい旅を共に体験できた兄弟姉妹の皆さまとの楽しいお交わりも忘れられません。特にホテルでの語らいと祈りの夜は、信仰の友を与えられているという励ましを感じた祝福の時でした。私としては3回目の聖地旅行でしたが、回を重ねるごとに奥深さを感じます。それは、ひとつには、聖地や遺跡が物語る歴史や意味の奥深さでした。

また、ひとつには、離散、ホロコーストと一口では言えない迫害の歴史をかかえるユダヤ人の人生観の奥深さの一端を感じたことでした。何よりも聖地を目の当たりにして、聖書のことばがより現実の事として深く迫ってくる体験です。

神でありながら



イエスの故郷ナザレ 突き落しの崖にて

人間として、弟子や人々にみ業を通してご自分をお証になったイエスのガリラヤ周辺の足跡。イエスがゲッセマネで飲んだ杯や、十字架へ進む苦しみの奥深さ。目にする物は、すっかり観光化され、表面的にはざわついた聖地も多いのですが、静まってその場所で起こった、みことばを読むとき、その重さが増していることに気がきます。



ユダの荒野

聖書は偽りのない書物と、聖地を通してますます確信できたことは大きな喜びです。なぜなら、過去のことが預言どおりであれば、聖書に書かれている将来の預言をも、実現すると確信できますから。現に、イスラエルはその将来の預言に沿って進行中という、姿をも感じました。

壮大な計画をもって私たち異邦人も、その祝福の中に入れてくださっている神様に感謝いたします。

### イスラエルのために祈る

川本真由美

スイス日本語福音キリスト教会



今回で2回目の聖地旅行。何カ月も前から心待ちにしていた旅行。到着したTel Aviv市内をバスで通るのは初めて。なんてすごい高層ビル！イスラエル

の高度成長をまず最初に見せつけられたよう。

2日目はメシヤニック・ジューの福音的神学校へ。看板なし、宣伝なしの大学はまだユダヤ人には受け入れられていないのだ。「福音的神学校」と隠すことなしに表札が早く出せるように祈る。3日目はマイヤー先生が理事をされているZedakah団体の老人ホームへ。

イザヤ  
40：1「慰めよ、慰めよ、私の民を。」が理念。マイヤー先生



は、創立以 [ホロコースト生存者の為のホーム](#) 来一度も献金の依頼や宣伝をしなくても献金が送られてくるとおっしゃっていた。まさに神様の奇跡そのもの。ホロコースト生存者に対するスタッフの愛は尊敬と称賛に値



イエスの公生涯の基地カペナウム

する。誰にでもできるものではない。私にはそのような愛は・・・ない。ごめんなさい。4日目はベツサイダとカペナウム見学。イエス様がおっしゃった通り、廃墟化。ソドムの方がいいとは何ということだろう。神様に悔い改めをするしかないのだ。

5日目はヨルダン谷をエルサレム方向へ上る。イスラエルってなんて綺麗！今の時期に来てうれしい。。緑、花、砂漠、山。でも秋の茶色の時期も来てみたい。

6日目はマハベラ洞窟。いや、もう洞窟ではなくイスラム化された飾りでお墓なのか？洞窟を想像しよう。死海で水浴。沖に流されそうで焦った・・・。手が底

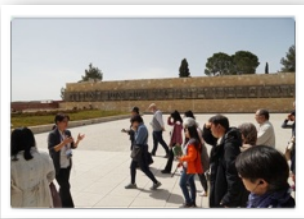


# イスラエルを旅して

につかない、焦る。今回は浜辺で浮かぶだけにしよう。

7日目はゲッセマネの園。ガイドのゆみさんの言葉、イエス様が私達のために汚い汚物を飲み干されたという言葉が心に残り、泣けて泣けて・・・イエス様、あ

りがとう  
ございま  
す。  
8日目は  
ヤド・  
ヴァシェ  
ム（ホロ  
コースト  
記念館）



ヤド・ヴァシェムにて

ゆみさんがガイドでこんなに感謝なことではない。ユダヤ人はどんなに悲惨な時でも将来のために準備する民族だということを知った。

排他主義、集団意識・・・どこの国にも存在する。そして余所者を排除しよう

とする行為は屈辱、非人格化、アイデンティティーの剥奪と犯罪化してしまうのだ。そして最後は破壊しつくす。ホロコーストは未来に向けての警告と二度と過ちを犯してはならない、人類すべてへの戒めである。

この人類史上悲惨な歴史を持ったユダヤ人であるが、近い将来飢餓が訪れることを予測して、環境変化に強い食物の改良や種を保存しているのだそう。それもユダヤ人のためにだけでなく、全世界の人類に対してである。



神様の福音がユダヤ人を通して異邦人も頂けるだけでも感謝に言いつくせないのに、イスラエルの為に祈ろうと決心する聖地旅行だった。



アラブ人の住む東エルサレムにヴィアドローサがある

## 人生の方向付けが成された旅

石川友子

スイス



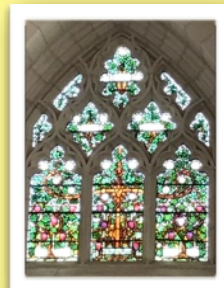
3、4年程前から出来るだけ通っているサントガレンでの家庭集会で、クスター節子さんに誘われる迄、夢にも思っていなかったイスラエル聖地旅行に、今回参加する事が出来ました。節子さんのお誘いに「未だ聖書も読み始めたばかりだし」と躊躇する私に「行っておいでよ。聖書の舞台を見たら、きっと聖書が読み易くなるよ。」

と背中を押してくれた津田和明君にも感謝します。

たったの八日間の間でしたが、私の人生の方向付けが成された貴重な八日間でした。遠い昔の遺跡見学から現在のメシアニックジューのシャバット礼拝参加やホロコースト生存者の老人ホーム訪問まで、一日の中で繰り返されるタイムスリップや、沢山の移動について行くのは難儀でしたが、短期間で多くを見聞するには、格好のツアーでした。

毎日沢山見学した中で、何が一番印象に残ったかと聞かれると、選ぶのに頭を悩ませる事になるのですが、個人的には参加者の皆さんとの交流が一番思い出に残りました。日本人人口1%と言われている日本人クリスチャンの皆さんがどういう過程を経てクリスチャンに成ったのか、そしてどういった信仰生活を送っていらっしゃるのか、実はとても興味深かったのです。

殆んど初対面の方々だったのにも拘らず、最初から親しみの湧く顔揃いで、なんとなく旧友と旅行している気分でした。物の見方、考え方は少しずつ違っていても、多分私達がクリスチャン精神で繋がっているからですね。しかし皆さんの聖書知識には脱帽です。この聖地旅行を機に、聖書を少しずつですが、毎日ドイツ語と日本語で読む様にしています。



最後に、沢山の知識を共有して下さったマイヤー先生、一生懸命ガイドとして奮闘して下さいました石堂ゆみさん、オーガナイズを切り持って下さった原憲二さんに心から感謝します。皆さんに、又いつか何処かでお会い出来る事を願いつつ。



## イスラエルを旅して

### 石堂姉から学んだもの

今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会



私にとっては2度目のイスラエルとなりました。今回は10月、乾季だったのでイスラエル全土は赤茶けた土で覆われ、荒野が広がる大地

でした。10月だというのに真夏の暑さの中、吹き抜ける風の心地よさや、水が湧くところにだけ生い茂る草木など、神様の許しのもとに生きる被造物に対する、創造主の圧倒的な強さ、厳しさを感じる旅でした。

しかし今回、イスラエルは春、雨季の時期だったので、花は咲き乱れ、緑は生い茂り、廃墟となったベツサイダさえも美しい花々にあふれていました。そして、イスラエルを熟知し、愛してやまないマイヤー先生とエルサレム在住で、イスラエルから世界に向けてその情勢を発信しているジャーナリストの石堂ゆみさんがガイドを務めてくださる豪華な旅となりました。

石堂さんからは、旅行だけでは知ることのできない、ユダヤ人のメンタリティーを「私たちには諦めるという贅

沢はない。」「絶望という言葉はあるが、絶望という状態はない。絶望に解決があるとしたら、知らない三つ目の道を選ぶ。」などの格言を交えて教えていただきました。それらの格言は、私の毎日の教訓ともなるものでした。

また、石堂さんのガイドは歴史嫌いの私にその素晴らしさと好奇心の目を開かせました。歴史は人の人生を積み上げた何層にもなるテル（ヘブライ語で歴史層）のようなものだと言うことに気づかされました。ツアーの間、石堂さんは何度も「遺跡を見る時は想像力が大事。」と言っておられましたが、エルサレムにあるホロコースト博物館、ヤド・バシェム（記憶の山と言う意味）を見学する頃にはかなり私の想像力も養われてきていました。



ベト・シェアン Betshean

1度目の訪問（前回のイスラエル旅行でも訪れました）の時にはその残酷さばかりに目が奪われて、博物館として残そうとしたユダヤ人の本当の思いを想像するに至らなかったのですが、2度目の今回は、人間の残忍性だけではなく、迫害された側も、迫害した側にも一人一人にも名前（個性、人となり）があり、神の目にはかけがいのない存在であり、悪に飲み込まれてし

まった人も、命がけで善を行った人もその命には大切な名前と記憶が残っていることを理解できるようになっていました。



膨大な石堂姉によるゴルゴダの丘の案内展示物と資料の中、そのような見方を導き出した、石堂さんのガイドは素晴らしいものでした。

「ユダヤ人は自分の、そして一人一人の生きた証を大事にしている。その証とは自分だけの利益を求めず、隣人の幸せをも願い求めて生きる事」。これも石堂さんから教えていただいた言葉ですが、私の生きる証がそのような目的のためにあるのならどんなに素晴らしい事だろう。主にあってそのように生きれますようにと気持ちを新たに帰途につきました。

あまりに多くのことを学んだ旅で、限られた紙面上ではお伝えできず、残念



からしの花

です。素晴らしい旅行を神様にそして石堂さん、団長のマイヤー先生、副団長の原憲二兄、一緒に参加した方々に心から感謝いたします。



オリーブを絞る石臼（カツリンにて）



カペナウムのシナゴーク跡



ダマスコス門から東エルサレム旧市街へ



エルサレム最後の夜は恵の雨が！



# イスラエルを旅して

## 心と体で聖書の真実を知る

富永重厚

パリプロテスタント日本語教会



クリスチャンとしての長い間の夢であったイスラエル聖地旅行がついに叶えられました。スイス日本語教会のマイヤー先生率いる24名の参加者として家

内と共に加わることが許されたのです。3月6日から14日までの言葉にならない程の恵み溢れる聖地旅行でした。

今回の聖地旅行には聖地訪問だけでなくメシアニック・ジューの福音的神学校やホロコースト生存者のための老人ホーム訪問、メシアニック教会の礼拝参加等のプログラムが組み込まれており、マイヤー先生のイスラエルでの尊い働き的一端を知ることができた事で大きな恵みと励ましをいただきました。

聖書でなじみの深い聖地では2日目に訪れたゲネザレ湖畔のマグダラの遺跡は、私にとって大きな感動を与えてくれました。このマグダラ遺跡はごく最近西暦1世紀のシナゴグが確認されたまことに貴重な遺跡です。部屋を囲んで石切の低いベンチが二重に並び、中央には見事なレリーフ装飾を施した長方形の石壇が置かれ恐らく律法の巻物を置き読むた



マグダラの会堂跡に見られるモザイク

めに使われたのではないかと考えられています。柱の外側の歩廊は床面には幾何学模様のモザイクがはっきりと残っており、壁にも当時のフレスコの赤彩が鮮やかに認められます。

ゲネザレ湖畔のシナゴグの遺跡の殆どがビザンティン時代のものである中でこのマグダラ遺跡はイエス・キリストの時代のものであり、まず間違いなくイエス・キリストがこのモザイク模様の床面を歩いていたと思われます。

私はこの歩廊から中央に置かれた石壇をかなり長時間眺めていましたが、はっきりとイエス・キリストが歩まれている姿を「感じる」ことができました。

まさに聖書に書かれていることは真実であると「心と体」で確信することができました。

聖書に出てくるその場所のみことばを読みメッセージを聴くことは何という大きな恵みでしょうか。

イエス・キリストがガリラヤ地方の宣教の拠点としていたカペナウムではゲネザレ湖畔で青く静かな湖を見ながらルカ5章1～11節を読みマイヤー先生がメッセージをして下さいました。

この箇所はシモン・ペテロが網を捨ててイエスに従った有名な箇所ですが、私にはそう簡単に理解できない箇所でした。

「群衆がイエスに押し迫るようにして神のことばを聞いたとき」シモン・ペテロはすでにしゅうとめに対するイエスの癒しを目撃しているにもかかわらず他の群衆のようにイエスの言葉を聴いていなかったように思えます。

網を洗っていたのです。イエスはそんなシモンの気持ちを分かっておられ舟を少し漕ぎ出すよう頼まれました。シモン

がすぐ近くでイエスの教えを聴くことができるようにです。その後深みに漕ぎ出して網を下ろすよう言われました。経験豊かなプロとしての誇りがあるシモンの気持ちは複雑であったことでしょう。

そして自分の思いと異なり網が破れそうになる程たくさんの魚が穫れた時、突然イエスの足元にひれ伏し「主よ。私のような罪深い人間から離れて下さい。」と心砕かれたのです。

このペテロの気持ちが私には今一つ理解できない箇所でした。

しかしこのカペナウムのゲネザレ湖の岸辺で聖書の箇所を読み

マイヤー先生のメッセージを静かに聞いた時、シモンを選び個人的に近づき召して下さったイエスの深い愛とシモン・ペテロの何もかも捨てて従った気持ちが実に自然と納得できたのです。

クリスチャンにとっての聖地旅行の最大の魅力は、今まで頭で理解していた聖書を「心と体で真実である」と知ることになることではないでしょうか。

今回の聖地旅行のガイドをお引き受け下さった石堂ゆみさんはクリスチャンでもあり、素晴らしい証もして下さいました。イスラエルの現状や聖書からみた興味深い動きをたくさん教えて下さいました。今まで遠くにあったイスラエルがとても身近なものとなり、今後ますます聖書の歴史観を持ってイスラエルを知りたいという気持ちを持つことができました。

この素晴らしいイスラエル聖地旅行を企画し実現して下さいましたマイヤー先生と石堂ゆみさん、そして原団長を初めとするスイス日本語教会の皆さま、そして個性豊かで楽しい参加者のお一人お一人に心から感謝を申し上げます。



ゲネザレ湖畔で遊ぶ



ゲネザレ湖畔に立つペテロの像

# イスラエルを旅して

## 新旧約聖書の余韻に浸る

富永幹恵

パリプロテスタント日本語教会



はじめに、今回の聖地旅行のために準備、労してくださったマイヤー先生、スイス教会の原兄はじめ愛兄弟に感謝します。ご一緒した皆様とも親交を深めることができ、楽しい時を過ごす事が出来感謝します。

前から友人などを通して、少しイスラエルの話を聞いていましたが、実際に訪れ聖書の世界を目の当たりにし、旅行から戻っても数日間、新旧約の世界の余韻に浸っていたほど旅行は印象深いものでした。

イエス様が歩かれた地ゲネザレ湖畔、カペナウム、幼少を過ごされたナザレの坂を訪れ駈けている幼いイエス様が見え

た思いがしました。マグダラの地、景色もイエス様が歩き見てらしたのだとしみじみと眺めてしまいました。ダビデがサウルに追われて逃げ隠れた地域を見、ヘブロンにもパレスチナ地区であるユダの山々の中を歩いていく事が出来ました。。。

美しくそびえていたヘルモン山を見ながらバスに揺られていましたが、ペテロが信仰告白をしたピリポ・カイザリアがその近くと知り現実感が増してきました。また現在のイスラエルが位置する状態も、メシアニックジューの礼拝、神学校、第三神殿に備えている聖書観などを通し、地理的にも民族、宗教的にもパレスチナとイスラムに挟まれている複雑な状況を間近に感じる事ができました。



聖書を読んでいて、地理や地形が前より具体的に なって います。その後、石堂ゆみさんより送っていた

だいているオリーブ便りも一字一句が身にしみてくるようです。



夜の西壁の前で祈禱するユダヤ人

初めて訪れた“エルサレム”も、人気がない時に、夜の散策で城壁を見上げ、足を踏み入れたその時の思いは忘れる事ができません。

ホロコースト記念館訪問も感慨深いものでした。ぎりぎりのところで人は何を 選ぶか主のみ傍近くにいて、よいものを選べるよう注意深くありたいです。

すべてを守ってくださった主に、素晴らしい天候を備えてくださったことにも感謝します。



ゴラン地方のカツリン (Katsrin)にて

# イスラエルを旅して

## ダイヤモンドでも追いつかない宝物

島津俊子

プラハコピリシ教会日本語礼拝

今回、私達夫婦は、生まれて初めてイスラエルを訪れ、マイヤー先生と石堂ゆみさんのご案内と素晴らしく充実したご説明で聖地を巡り、聖書にもとずいた歴史を把握しながら遺跡を目のあたりにするという個人では願っても果たせない機会に恵まれました。

昨秋、日ごろからプラハで親しくお交わり下さっている閑恵姉からお誘いをいただき、まず夫に相談してみようと、聖地旅行のことを話したら、チェコ人の夫は瞬時にして、参加しよう！と決めてしまいました。この時の夫の即決が、私達には人生で二度と体験できないほどの感動の始まりでした。

今年3月6日にプラハを出発し、14日に帰るという、欧州各地から参加される皆様とご一緒させていただく聖地旅行は、きっと一生に残る感動的な体験になる、ともちろん期待してはいましたが、実際には、出発前の想像をはるかに超える一生どころではない永遠の人生からもはみ出してしまふほどの豊かな体験と恵みと感動をいただきました。



オリブ山にて、エルサレムを背景に黒田姉と

この聖地旅行で、神様からの強い愛とそれを真正面からお受けするという勇気をいただきました。夜、皆様とお祈りの時を待たされたこともあふれるほどいただいた恵みの一つです。

私には、昔、イスラエルと聞くと、石の家、レンガ色の壁や土に覆われた国、というイメージしかありませんでしたし、幼いころは、日曜学校で聖書のお話に触れていたものの、現実とは全くかけ離れた地球上にはないどこかの国、という気持ちしかなかったと思います。

私は今まで、神様の御前ではベールで顔を覆っていたいほど、社会人としての信仰もあやふや、教会の中でも弱くてみっともない自分を恥ずかしく思っていました。

今回、マイヤー先生とオリブ便りの編集者でもいらっしゃる石堂ゆみさんの懇切丁寧なご案内と情熱にあふれるお話は、聖地を巡る私達にとって、一番高価なダイヤモンドでも追いつかないほどの宝物でした。そして、一日の見学を終えた毎晩の分かち合いの時に、マイヤー先生からの聖書の箇所を裏付けてのお話を通し、今日見てきたあのタボール山もナザレの突き落



ナザレの突き落の崖から見るタボール山

とし崖のお話もガレリア/ゲネザレ湖、カペナウムやベテロの奇跡もイエス様の預言もすべて本当のことだった、ということが水の流れのごとく心に伝わり、聖書はただの伝説物語ではないのか、と最近自分の心の隅に宿っていた疑惑も解消しました。

あちこちで、聖霊が働いてくださったのだと思います。聖書の大切さを痛感いたしました。聖地で歴史と聖書の関連性をしっかりとご教示いただいたことは、言葉では言い尽くせないほどのありがたい収穫(?)でした。それに、ご一緒させていただいた皆様が御言葉のなかに生きていらっしゃることに感嘆いたしました。

簡潔に上手に文章を書くことのできない私には、表現のしようもないのですが、紀元前およそ2000年のアブラハムの時代から1948年のイスラエル国家の復活に至るまでの預言と奇跡、歴史を遡った事実、イエス様が知恵試しのようによく用いられていた象徴のたとえ話の意味が、おもしろいように解かれて行って、これほどまでに聖書のお話を楽しみにしていた時は、今までありませんでした。ありがとうございました！

ご一緒した皆様の数々のご体験や感動ときっと重複すると思いますので、具体的な多くの見学地の様子や印象は、割愛させていただきますが、今回の旅行で、もう一つ心に深く刻まれたことがあります。



ホロコースト生存者のためのホーム Maalot

Zedakah団体のMaalot老人ホームを訪問して、ドイツからのクリスチャンの方々がボランティアでホロコースト生存者のお世話をされていたことで



## イスラエルを旅して

す。第二次世界大戦中の加害国であったドイツ。でも、戦争を知らない世代のその責任もないはずの若いドイツ人クリスチャンの方々が、日夜、戦争の被害者であるユダヤ人生存者のケアをされていること。旧加害国側のドイツの民間の方々がそのために膨大な資金を捧げていらっしゃる。ホロコースト生存者の多くがユダヤ教の伝統や儀式を守られることに、それ

らを尊重し、その時をともに分かち合っていることに深く心を動かされました。



Maalot老人ホームのシェルター

を強く感じました。想像を超える絶望的な体験をされて生き残られたご老人達に対する限りない無償の愛に感動いたしました。戦争のせいで失われた個人の誇り、人生や愛する故郷、家族、の代償にはならないけれど、その方々の晩年をせいっぱいの愛と寛容で包んでお世話をされているひたむきな姿勢に神様の大きな愛を見ました。神様の愛、そして御力なしにはこんなご奉仕はできないでしょう。

ただ、この老人ホームをはじめ、イスラエルのどこの施設にも建物にもホテルにも必ずシェルターがあります。それらが現実に使われていることを思うと、現在の欧州で平和の中で平凡に暮らしている私達は、今もいつ戦争が勃発するかわからない状況にさらされているいらっしゃるこれらの方々のことを覚えてお祈りせずにはいられません。

そして、聖地旅行のプログラムの最後の日に訪れたヤド・バシムホロコースト博物館。ここでは、イスラエル国家公認のガイドさんとしてご案内くださった石堂ゆみさんが悲劇のデータのみにとどまらないユダヤ人の生と死の極限時での精神力と驚くべき未来への希望、ユダヤ民族としての誇りをも真摯なお言葉で解説してくださいました。感謝でいっぱいです。これは単に過去の記録ではなく、現



ヤド・バシムホロコースト博物館へ

代に生きる私たちに問われていること、というお言葉も胸に焼きついています。



なお、このホロコースト博物館で私たちは、石堂ゆみさんが携帯マイクを通してお話して下さったことを、私たち一人一人に配られたイヤホンでしっかりとキャッチすることができました。この方法は、外では騒音などでご説明中の生

の音が聞き取れなくて残念な思いをしていた私達にはとてもありがたいことでした。

マイヤー先生が作成して下さったガイドブックにあるお言葉をそのままお借りして申し訳ありませんが、今回の旅行で、すべての見たこと、聞いたことは「いかに、イスラエル民が、約束通りに全世界に散らばられ、迫害され、苦しめられ、そして約束の国に連れ戻されたかということ」の証しでした。(申命記28章15-69)

マイヤー先生から、アンチセミティズムが、文明の進化した今日のヨーロッパでも広まっているということをお聞きしましたが、信じられないくらい悲しいことです。全世界のできるだけ多くの方々がここを訪れ、しばし静かに胸に手を当てて自問する機会が与えられることをお祈りしています。ユダヤ民族はどこまで試されなければならないのでしょうか。これが私達の責任への問いかけでもあるのですね。

神様のお守りのうちに無事に聖地旅行を終わり、実に素晴らしいお仲間にも恵まれ、お祈りの中に10日間を過ごすことができました。この旅行を企画し、大変なお骨折りをして実現して下さったマイヤー先生、石堂ゆみさん、憲二さんご夫妻、ご関係者の皆様、旅行会社のスタッフの方々、そして、思い出となるたくさんの写真を撮って、アルバムもお交わりも共有させて下さったすべての皆様に心より感謝いたします。パレスチナの地区から来て下さった運転手のイマールさんにもその見事な運転スキルとご親切に心よりの感謝の気持ちと拍手を送りたいと思います。



シャローム  
俊子&イヴァン

ユダの荒野をバックに

あなたのみことばは、私の足のともしび  
私の道の光です。 詩篇 119:105

## イスラエルとその民に深い愛を！

団長 マイヤー・マルチン牧師



Maalot老人ホームにて

この3度目のイスラエル旅行は、私にとって、実に特別なハイライトであったといえます。私が立てた企画とプログラムは一点も損なわれることなく遂行できたこと、そして、どのような事故も起きなかったことに、心から感謝しています。私たちは、聖書を手に、実に心豊かな祝福の時を過ごす幸いを得ました。

特に感謝していることは、私たちのガイドであった石堂ゆみ姉とともに連携して今回の聖地旅行を敢行出来たことです。石堂姉は、深い聖書の知識に裏付けられた素晴らしい解説を要所要所でしてくださいました。

神様の祝福が、彼女の”オリーブ山便り”の発信ほか多くのお仕事に、彼女の将来に、豊かに注がれますよう祈っております。そして、願わくば今回のようなイスラエル旅行をふたたび催行できますならば、それはなんと大きな喜びでありましょう。

今回のイスラエル旅行に参加された兄弟姉妹が、神さまのみことば、ならびにイスラエルの国とその民への深い愛を育んでくださることを、私は願い、そして希望しています。

ゲネザレ湖の背後に落ちる夕日